

**【研究主題】 学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営及び学校教育の充実を図る評価・改善の推進**



**I 研究発表と協議**

**【協議題①】**

学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくりと学校運営の推進

**<発表題>**

マネジメント力が発揮される組織づくりと目標を明確にした学校運営の充実を目指して

宮崎県日向市立寺迫小学校 校長  
荒神 雅彦

**<発表概要>**

校長が示す学校経営ビジョンを具現化するためには、学校経営ビジョンを教職員に具体的に示すことや教職員で共有すること、教職員一人一人が当事者意識をもって理解することが重要である。また、組織の力を最大限に発揮できるよう、個々の教職員の資質や能力、専門性を生かすこと、教職員が学び合いながら協働して具現化すること、全教育活動の点検や評価、見直しを確実にすることなど、マネジメント力が発揮される組織づくりと目標を明確にした学校経営が重要である。さらに、様々な教育的課題に積極的かつ柔軟に対応するため、家庭や地域、関係機関等と連携・協働して学校運営に取り組むことも重要である。

そこで、日向市内のそれぞれの学校で学校規模や学校の特色に応じた具体的な方策に取り組むことで、成果や課題が明らかになり、よりよい取組を推進していくことができるであろうと考える。

(1) 学校経営ビジョンの具現化に向けた活力ある組織づくり

① 校長の明確で分かりやすい学校経営ビジョンやゴールイメージの提示の工夫

- ② 個々の教職員の適切な役割分担と連携
- ③ チーム学校として、教職員の参画意識の高まりと自己有用感の醸成について
- (2) 学校経営ビジョンの具現化に向けた学校運営の推進
  - ① 個々の教職員の実践に対する課題提示と評価の工夫
  - ② 家庭や地域との連携及びコミュニティ・スクールの充実

**<協議の概要>**

- (1) 学校目標の重点課題を数値化することは教職員の足並みをそろえるのに有効に働く。前年度の2学期ぐらいから構想を練り、教職員から課題を吸い上げ、目標を決めていくことが大切である。数値化することで、振り返りもしやすくなる。
- (2) 学校は地域と保護者をつなぐ役割を担っている。保護者や地域の願いを校長は十分に把握し、保護者の願いを地域に、地域の願いを保護者にと伝え、相互の関係性を効果的にするためにはどんなことができるのかを考えておく必要がある。
- (3) 校長の経営ビジョンを浸透させるには、ビジョンを明らかにするとともに、教職員との面談を大切にする。面談を通して、一人一人に合った説明をすることで、若手にも役割感やすべきことをもたせることができ、元気になることができる。

学校経営ビジョンを教職員にいかに示していくかが課題である。地域とのつながりは現状を見つめ、先を考えながら取り組んでいくことが大切である。組織づくりは教職員に常に声を掛け、課題を示し、支援していくことが大切である。以上のことが再確認された。



## 【協議題②】

自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする  
学校経営の評価・改善

### <発表題>

学校評価の在り方と評価を生かした学校経営の改善

鹿児島県伊佐市立田中小学校 校長  
谷口 善郎

### <発表概要>

平成22年改訂の「学校評価ガイドライン」によれば、学校評価の目的は①教育の質の向上、②信頼される開かれた学校づくり、③学校運営の改善の三つである。これらの目的を達成するための学校評価は、学校自身が行う自己評価を核として、保護者や地域住民等による評価（学校関係者評価）と外部の専門家による専門的観点からの評価（第三者評価）で構成されている。

ここでは、経営の改善に向けて、自己評価の在り方や評価の生かし方、また、保護者等の学校関係者による評価と連携の在り方について本校における取組を紹介する。そして、真に学校経営に生かすことのできる学校評価はどうあればよいかを明らかにする。

- (1) 成果を共有するための評価項目等の見直しについて
  - ① 重点目標の設定
  - ② 評価項目の設定
  - ③ 評価方法の工夫
- (2) 「学校運営協議会制度」による評価
- (3) 評価結果のフィードバック
  - ① 保護者へのフィードバック
  - ② 部会等による改善のための取組

### <協議の概要>

- (1) 学校評価については、評価のための評価にならないこと、何のために評価するのか、なぜ評価が必要なのか、指標のための評価であることなどをしっかり考えておく必要がある。学校経営ビジョンに基づき、理想とする学校にどれだけ近づいているかを見るものである。
- (2) 新しい学力観を学校評価にどう取り入れるかが難しいところがある。すべての保護者が学習指導要領を理解しているわけではない。学校ホームページや便り等を活用して、全国学力・学習状況

調査の結果を考察して知らせたり、学校の授業改善の取組や今求められている力などを紹介したりしていくことが必要である。

- (3) 学校評価の評価項目については、児童生徒、保護者、教師、学校関係者の4者の立場等を考慮して、内容によっては項目をそろえるところと、分ける項目もあるのではないかと。また、児童生徒の将来の姿を考え、評価項目を変更することもあるのではないかと。しかしながら、限られた時間の中で、見直し等は十分できていないのが実情である。教育委員会で評価項目を部分的に指定されているところもある。
- (4) 学校関係者評価の評価者から「わからない」という声がある。解決方法の一つとして、学校関係者評価の評価者には、児童生徒、保護者、教師の評価結果を提示して、学校の取組やその結果としての評価結果の説明を行い、そのことに対して評価してもらおうというやり方もある。学校関係者評価の項目が、学校経営方針とリンクしており、学校関係者評価が最も大切である。

## II まとめ

校長の学校経営ビジョンを具現化するためには教職員を理解した上で、コミュニケーションをとることが大切。また、数値化して可視化することが有効。それが向かう方向、足並みをそろえることにつながる。地域とのつながりも学校運営上大切にすべきなので、見通しをもってつながっていく必要がある。

学校評価で評価したことを学校経営ビジョンにどう生かしていくかが大切である。児童生徒、保護者、教師、学校関係者の4者について、評価項目や重点項目を毎年見直ししながら、学校の活性化につながっていくように学校評価を活用していくことが重要である。

